

桃山南だより

令和元年度 後期学校評価版
京都市立桃山南小学校
校長 芝原 理

新型コロナウイルスに関連した感染症対策についての国や教育委員会からの通知を踏まえ、5日（木）から臨時休校になることになりました。本年度も本校教育活動にご理解、ご協力をください、
ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。
さて、1月に行いました学校評価アンケートの結果についてご報告いたします。



【確かな学力】

子どもは人の話を最後まで しっかり聞いている

	47.7%	36.4%	12.6%
低学年	47.7%	36.4%	12.6%
高学年	32.7%	49.4%	14.9%
保護者	11.2%	52.9%	34.0%
保護者（勤）	11.3%	73.6%	15.1%
教職員	12.0%	40.0%	44.0%

子どもは家庭学習をしっかりしている

	60.9%	27.8%	8.6%
低学年	60.9%	27.8%	8.6%
高学年	47.9%	36.5%	12.0%
保護者	23.2%	51.7%	20.5%
保護者（勤）	18.4%	63.2%	18.0%
教職員	0.0%	68.0%	24.0%

子どもは学習や学校行事などに 自分から進んで取り組んでいる

	34.4%	50.6%	13.0%
低学年	34.4%	50.6%	13.0%
高学年	24.6%	56.3%	13.2%
保護者	28.6%	59.5%	10.4%
保護者（勤）	10.5%	77.7%	11.3%
教職員	8.3%	83.3%	8.3%

子どもはいろいろなことに目標をもって あきらめずに取り組んでいる

	50.3%	33.5%	13.5%
低学年	50.3%	33.5%	13.5%
高学年	33.9%	47.6%	14.9%
保護者	18.5%	59.2%	21.2%
保護者（勤）	10.5%	76.1%	13.4%
教職員	12.5%	75.0%	12.5%

【確かな学力】の調査項目では、できていると回答する割合は低学年の方が高いです。高学年は、自己に対して厳しい評価をしていると考えられますが、それは、努力できる伸びしろを残している証しであるので、来年度も積極的に評価して行動の変容を促したいと思います。前向きに学習 に関しては高学年が2.4P、保護者が3.1Pの上昇が見られました。また、あきらめずに取り組む も高学年が2.5P、保護者が2.0P上昇しました。これは、高学年として委員会活動や縦割り活動などで、自分たちが責任をもって行動したことや学校行事などで目標をもって取り組んだことに起因すると考えられます。 話を聞く に関しては、低学年・高学年・教職員三者が低下していました。また、家庭学習 に関して、多くの児童はできていると回答しているのに対し、教職員は、できているは、68%にとどまっています。今後は、話を聞く 家庭での学習 に重点をかけ、新学習指導要領が目指す「生きる力-学びの、その先へ」と児童の資質・能力を伸ばしていきたいです。

【健やかな体】

子どもはいつも元気で、明るい気持ちで 過ごしている

	76.9%	17.3%	2%
低学年	76.9%	17.3%	2%
高学年	52.4%	31.3%	13.3%
保護者	41.2%	55.4%	3.5%
保護者（勤）	22.7%	66.4%	10.5%
教職員	32.0%	52.0%	16.0%

■よくできている ■大体できている

■あまりできていない ■できていない



子どもはいろいろなスポーツや外遊びなど で進んで体を動かしている

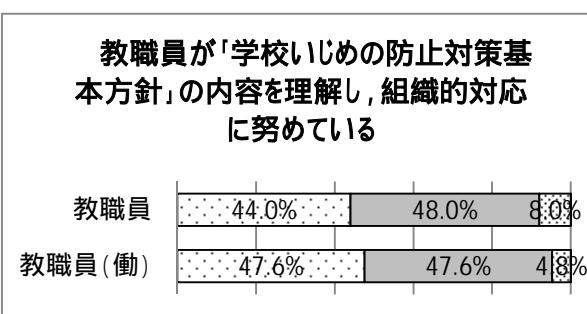
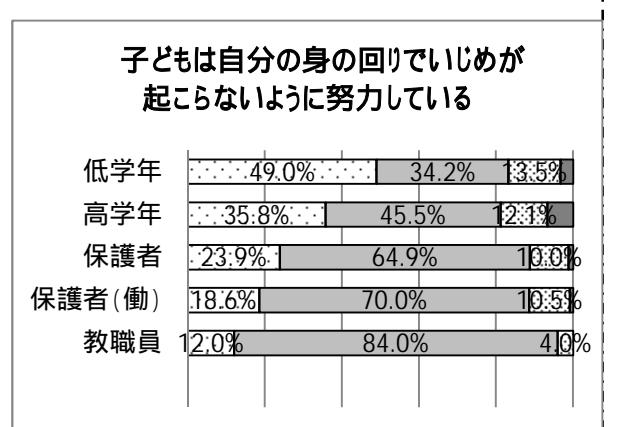
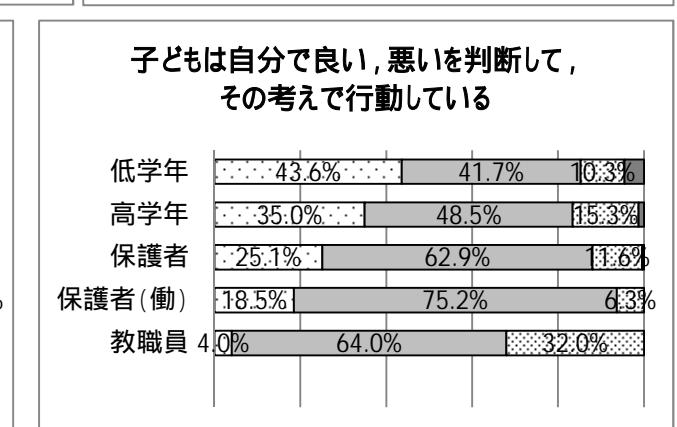
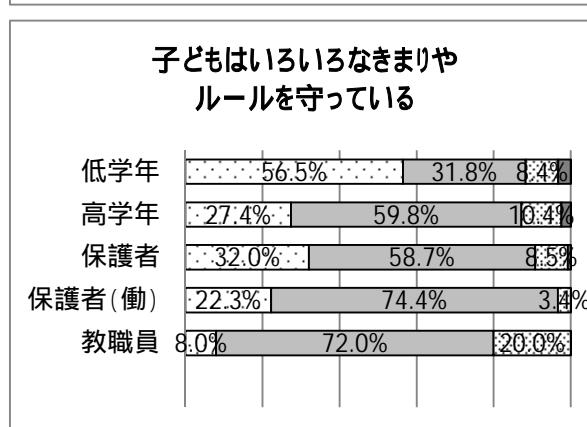
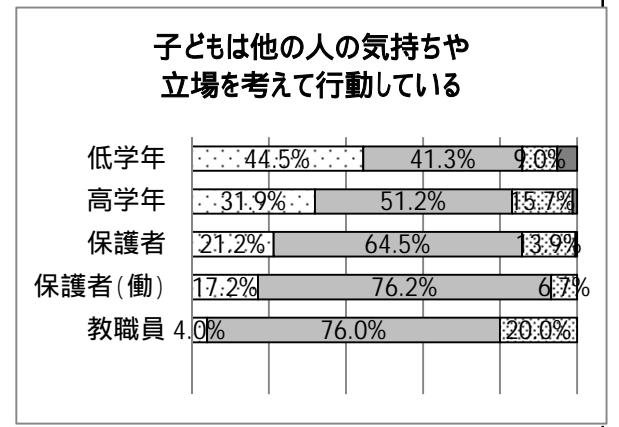
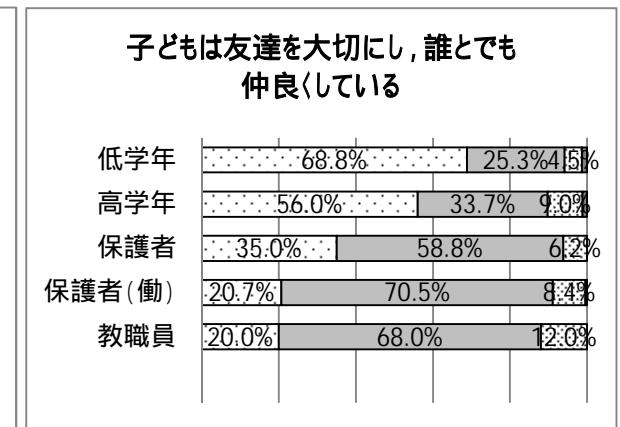
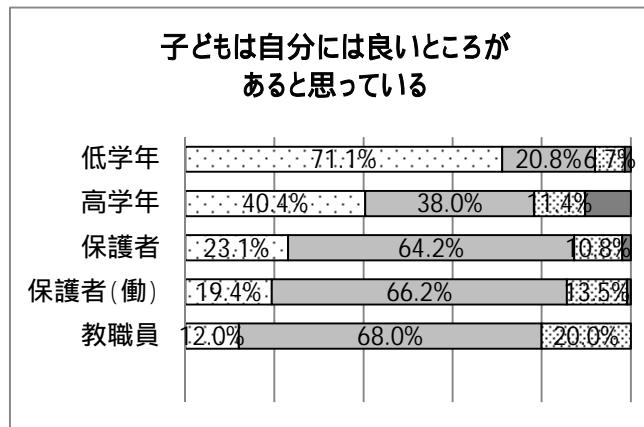
	69.2%	22.0%	1.5%
低学年	69.2%	22.0%	1.5%
高学年	53.6%	25.6%	14.9%
保護者	32.7%	41.9%	22.7%
保護者（勤）	17.2%	56.7%	23.1%
教職員	24.0%	56.0%	20.0%

【健やかな体】では、心の健康も問っています。「子どもはいつも元気で、明るい気持ちで過ごしている」の項目で、低学年は2.2P上昇しましたが、高学年は、3.1%低下しました。保護者の 96.5%が「子どもはいつも元気で、明るい気持ちで過ごしている」と回答していました。嬉しい結果です。「生活習慣」は、低学年は、前回結果と比べ 6.5P の上昇を見ましたが、規則正しい生活をしているとする児童が、高学年では、依然 8割程度にとどまり、大きな課題です。「早寝、早起き、朝ご飯」に代表される規則正しい生活習慣が備わって、自分の力を十分発揮することや優しい気持ちになることができるといわれています。ご家庭での支援を引き続きよろしくお願いいたします。

「進んで体を動かす」では、高学年が3.5%、保護者が2.8%上昇しました。前回の学校評価結果を生かし、ジャンプアップの取組や持久走大会 なわとび大会などを開催して、休み時間に走ったりなわとびの練習をしたりして、全校的に運動をする機会が増えたことにより改善されました。



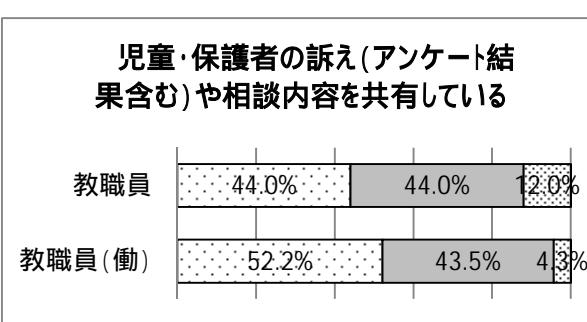
【豊かな心】



【豊かな心】では、自分の良いところがあると思うは、低学年や保護者は前回よりさらに上昇し、教職員においては、85.2%と22.2Pの上昇がありました。それは、学校生活全般において児童と一緒に活動することが増え、また各種の行事で児童の活躍や頑張りを見取る中で児童の生き生きとした姿に出会ったからであると考えられます。

仲良くは、このアンケートで一番「できている」の高い値を示した項目でした。全対象を見ても90%を超えています。桃山南小学校の9割の子どもたちが、仲良くできていると答えており、本校の最大の良さだと思われます。それと同時に他人の気持ちや立場の項目も、前期に比べそれぞれ9P近い上昇があり、学校教育目標にある「やさしく」に迫ることができたと嬉しく思っています。

【いじめ対策】の項目について「いじめが起こらないように努力」では、低学年は92.3%（3.9）高学年80.1%（1.9）ができていると答えています。高学年の値は、2割の子どもができていないと答えてるのが気にかかります。教職員のいじめ対応に努める相談内容を共有するは、できているが100%でした。人権教育や道徳教育のなお一層の充実を図るとともにご家庭との連携を強めて、いじめ防止の取組を進めていきたいと思います。



は（いじめ対策）の質問項目を示す。

【自由記述より】

- LINEやメールで、グループでも個人の間でも、相手を傷つける言い方を何も考えずに言葉を使っているように思う。いじめに繋がりかねないような文も見受けられるので、「攻撃的なことば」は、それが相手を知らぬうちに傷つけていることへの理解を学習時間に深めて、もっと1人1人がわかる必要があるのではないかと思います。
 - ・生活リズムの管理をもう少し自分自身で考え、行動できるようになって欲しい。
 - ・高学年になり働きかけることばかりではなく見守ることも増えてきました。学校生活の中で自主性が伸びてきているように思います。
 - ・南小出身の桃山中学生が電車内のマナーがとても悪い。特に通学時、満員電車にもかかわらず、リュックを前に抱える生徒は1%。卒業前に、また日頃から電車や公共の乗り物内でのマナーを学校でも行ってほしい。（家庭での教育も前提に）
 - ・女子の間でのことです。下校時や遊ぶ際、この子と帰る・遊ぶ約束をしているから、ほかの子からの誘いがあっても断っている子がいます。それで、結局断られた子は1人で帰ったりしているのですが、みんなで仲良くできないのかと心配です。
 - ・自己肯定感が低いのが気になりますが、学校の先生方には、良いところをたくさんほめていただき感謝しております。
 - ・何かが出来たことをほめるより、何かが出来ないことを注意することが多いですが積み重なって、自己肯定感が少し低いように思います。今後はもっと本人を認めて、ほめていこうと思います。
 - ・入学当初より「決まり」や「ルール」の大切さを本人なりに感じ、守る努力をしているなと思います。
- この他、たくさんのご意見をいただきました。アンケート結果や皆さんのご意見をもとにこれまでの取組を見直し、今後の対策について話し合いました。今後も、何かお気づきのことがございましたら、学校へお知らせください。

ご協力ありがとうございました。

